



# ワクチン、どうしようか？

新型コロナ対策のワクチン接種が始まった。医療関係者から始め、次は高齢者。

しかし、関西大学の昨年末の調査では、したくない人が二四%。

思い起こすのは子宮頸がんワクチン禍。

子宮頸がんはHPVウイルスで起きるからワクチンで防げる。

ところが二〇一三年、ワクチン無料接種開始後、手足の震え、学習障害、高校生なのに幼児向け絵本が理解出来ない例等が報道された。

発症率は〇・〇一%と厚生省は云い、重大症状とワクチンとの因果関係を認めていない。

水俣病やイタイイタイ病でも、被害者が原因を裁判で証明する迄、補償は無かった。

こういう事から「ワクチンの副反応があっても政府は助けてくれない」と誰しも思う。

## 副反応の責任のとり方

「新型コロナ」で政府は「ワクチンの副反応のアナフィラキシーは極めて少ない。自分の判断で受けて」と云うのみ。

問題は副反応の確率ではなく「万一、副反応で重大事態になった場合」の事。

その時、原因はワクチンと証明して「政府は補償せよ」と裁判を起すのは大変だ。

## 政府が証明責任を取る

最近菅氏は「責任は全て私が」と色々な場面云っている。

しかし、大切な事は「ワクチンが原因ではないと証明されない限り、医療費も生活の保障も政府が負う」と云うことではないか。

あなたはこう思われますか？

## 山手百十一番館

横浜市中央区山手町

二〇二二年二月



山手百十一番館は港の見える丘公園の南の端にある。

大正末期にアメリカ人の邸宅として建設された。

創建当時は二階に回廊と「スリーピングポーチ」があった。

二十世紀初頭、米国では外気で眠るのが健康に良いとされていた。

ネットで見ると「午睡室(スリーピングポーチ)」とある。

日本は雨も多いし蚊もいるから昼寝にしか使えなかったのだろう。

この百十一番館は一九九六年に横浜市が取得した。

二階の元寝室は今は会議室となっている。

この山手百十一番館の前を右に進むと、この西洋館のような大きな敷地を構えた屋敷が幾つもある。

一部はマンションに変わっている。

先週は休みでしたが、来週休むかも知れません。

